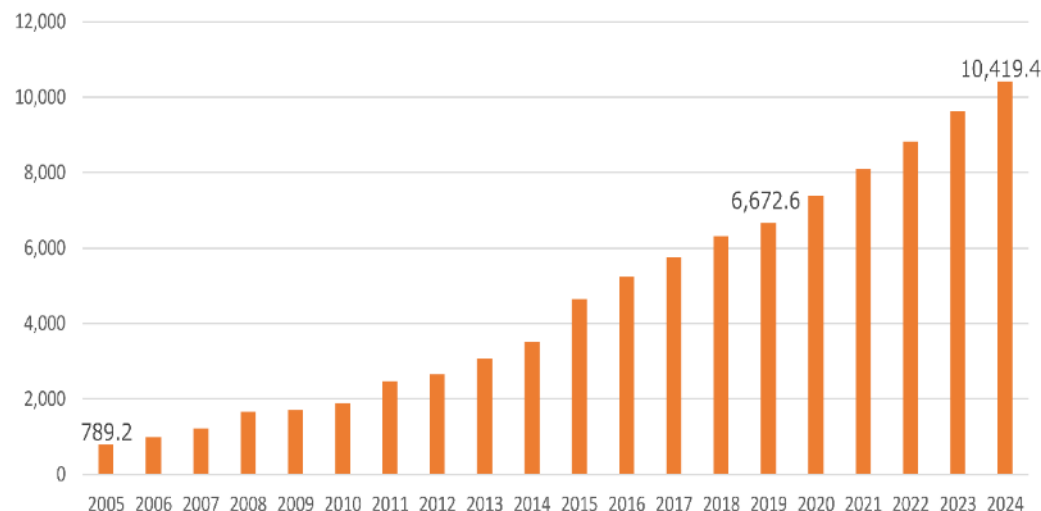


世界のグルテンフリー市場規模

アメリカや欧州を中心に、
世界のグルテンフリー市場は順調に拡大しており、
2024年には約100億USDに達する見込み



図：世界のグルテンフリー市場

注：2020年以降は予測値
出所：Euromonitor Dataを基にJFOOD0にて作図

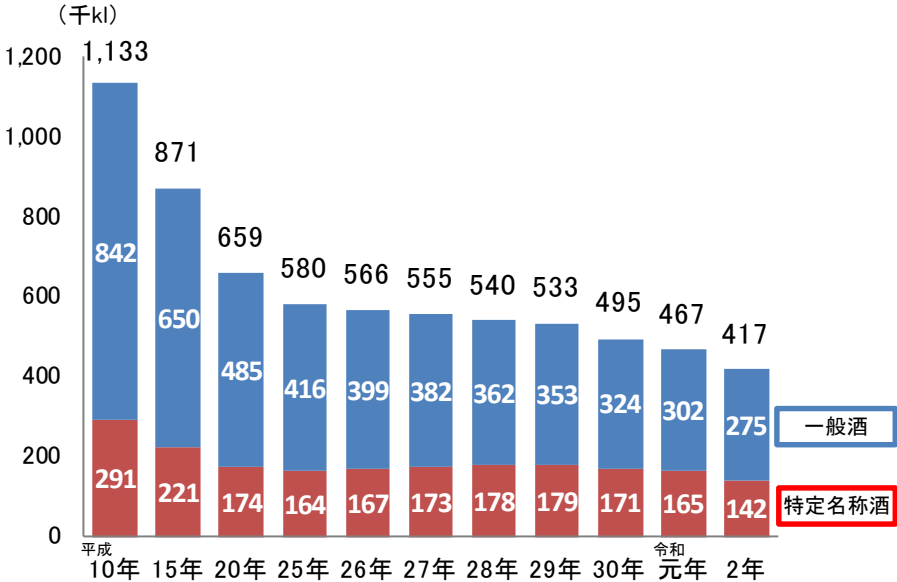
米粉によるグルテンフリー市場の 取り込みに向けて

- ◆ グルテンフリー市場は、麦類に含まれるグルテンによるアレルギー、セリアック病、グルテン過敏症、ダイエット等に対するニーズにより形成
- ◆ 米は成分としてグルテンを含んでいないため、近年、米粉やその米粉を利用した商品の製造に取り組むメーカーも増加
- ◆ 平成30年6月から、グルテンフリー表示よりも高い水準をクリアして、グルテン含有「1ppm以下」の米粉を「ノングルテン表示」でアピールする「ノングルテン米粉第三者認証制度」を開始
- ◆ また、令和2年10月には、更なる輸出拡大に向けて「ノングルテン米粉の製造工程管理JAS」を制定

日本酒原料米の需要動向について

- 日本酒原料米の使用量については、日本酒出荷量の減少に伴い、減少傾向にある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により、業務用を中心に日本酒の国内出荷量は大きく減少(▲11%)。特に、酒造好適米の使用量の多い特定名称酒の出荷量が大幅に減少(▲14%)。さらに、輸出についても大幅に減少(▲13%)。
- これにより、酒造好適米の需要量についても大幅に減少しているところ。

○ 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。
注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。令和2年は概算値。
2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒等8種類に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

○ 日本酒の輸出数量の推移

(単位：千kl)

平成	10年	15年	20年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和	元年	2年
8	8	12	16	16	18	20	23	26	25	22		

資料：「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

○ 日本酒原料米の使用量

(単位：千トン)

	10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産
日本酒原料米	405	315	261	243	248	251	241	240	227
酒造好適米	99	75	77	76	90	99	97	94	88
加工用米	86	89	74	95	105	94	93	88	90
その他	220	151	110	72	53	58	51	58	49

資料：農林水産省による推計値。

○ 令和2年の月ごとの日本酒の国内出荷量及び輸出量の推移

(単位：kl)

	令和2年												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
国内出荷量 (前年同月比)	417 (89%)	25 (93%)	34 (93%)	37 (87%)	35 (79%)	22 (79%)	29 (95%)	31 (96%)	25 (82%)	28 (74%)	39 (105%)	47 (94%)	66 (93%)
特定名称酒 (前年同月比)	142 (86%)	10 (97%)	11 (95%)	11 (82%)	10 (61%)	7 (64%)	10 (92%)	11 (91%)	9 (80%)	9 (77%)	13 (100%)	17 (96%)	25 (94%)
一般酒 (前年同月比)	275 (91%)	15 (90%)	22 (92%)	26 (89%)	25 (88%)	15 (88%)	19 (97%)	20 (100%)	16 (83%)	19 (72%)	26 (107%)	30 (92%)	41 (93%)
輸出量 (前年同月比)	22 (87%)	1 (81%)	2 (72%)	2 (64%)	1 (55%)	1 (57%)	1 (66%)	2 (84%)	1 (83%)	2 (123%)	2 (115%)	2 (135%)	3 (134%)

資料：国内出荷量は日本酒造組合中央会調べ。輸出量は「貿易統計」(財務省)。年は暦年。
注：日本酒の一般酒は、国内出荷量から特定名称酒の数量を差し引いて算出。

酒造好適米の需要に応じた生産について

- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米の需要量調査を実施し、調査結果等を公表。
- 令和2年7月に実施した需要量調査によると、
 - ① 令和2年産については、全体需要量が令和2年産の生産量（推計値）の▲11千トン（▲13%）程度と大幅に減少していることから、大幅な供給過剰
 - ② 令和3年産については、全体需要量と同水準の生産量とするためには、70～72千トン程度の生産量（令和2年産の生産量（推計値）の▲14千トン（▲17%）程度）となり、令和2年産において大幅な在庫の増加が見込まれることを踏まえると、需給均衡にはさらに大幅な生産抑制が必要と見込まれる。

○ 酒造好適米の需要量調査の実施状況

	令和2年度
調査期間	令和2年7月
調査対象メーカー数	1,421社
回答酒造メーカー数	730社
回答率（数量ベース）	79～80%

○ 酒造好適米の需要量調査結果

（単位：千トン）

平成30年 （実績）	令和元年年 （実績見込）	令和2年 （見込）	令和3年 （見込）
70.0	65.7	58.3	56.4

注：令和2年7月の調査結果。酒造メーカーからの回答があったものの合計。全体需要量（推計）に対するカバー率は79～80%。

○ 酒造好適米の生産状況

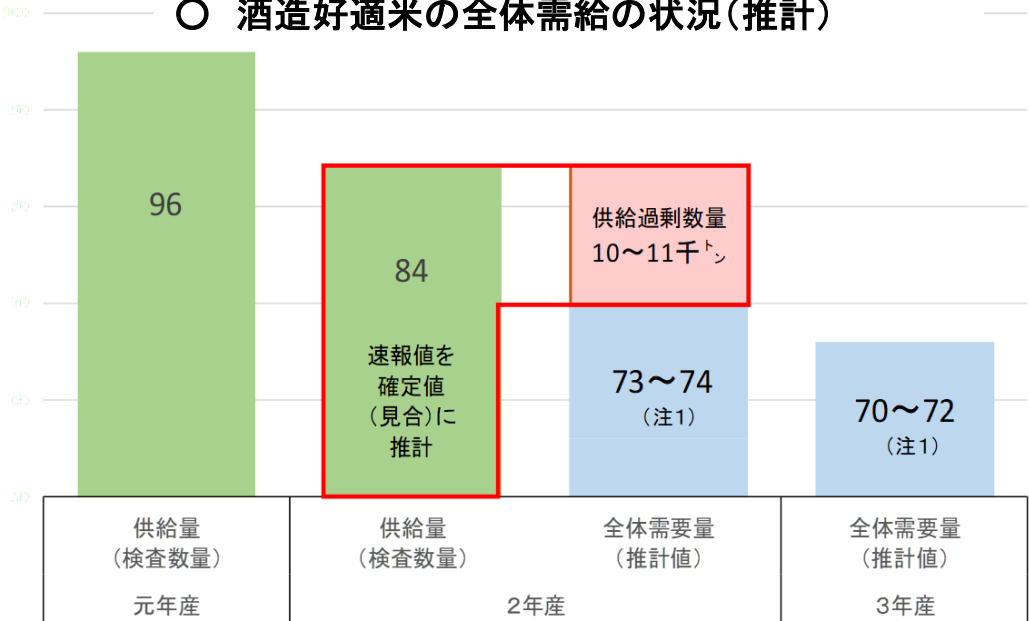
（単位：千トン）

平成10年産	15年産	20年産	25年産	26年産	27年産	28年産	29年産	30年産	令和元年年	2年産
99	75	77	76	90	109	107	102	96	96	84

資料：「農産物検査結果」（農林水産省）

注：令和2年産は、令和2年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

○ 酒造好適米の全体需給の状況（推計）



注1：各年産の全体需要量（今回推計値）は、今回の需要量調査の数量ベース回収率が、平成30年産酒造好適米の全体需要量（87～89千トン）と今回調査の平成30年産の需要量（約70千トン）から約79～80%と推計されるため、各年産の今回調査結果の需要量を当該割合で除することにより算出。

注2：供給量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、令和2年産は、令和2年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率により確定値見合いに推計したもの。

⑤ コメの輸出・輸入

食料・農業・農村基本計画におけるコメ・コメ加工品の輸出に係る位置づけ

食料・農業・農村基本計画（令和2年3月31日 閣議決定）

第3 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講ずべき施策

1. 食料の安定供給の確保に関する施策

（2）グローバルマーケットの戦略的な開拓

① 農林水産物・食品の輸出促進

国内においては、消費者の低価格志向に加え、今後は本格的な少子高齢化・人口減少に伴って、農林水産物・食品の消費の減少が見込まれる。このような中で、農業・農村の持続性を確保し農業の生産基盤を維持していくため、品目ごとの特性を踏まえて国内需要に応じた生産を拡大することに加え、我が国の高品質な農林水産物・食品を輸出に仕向けるための努力を官民の総力を挙げて行い、可能な限り輸出を拡大していく。

2019年の農林水産物・食品の輸出額は、9,121億円となり、7年連続で増加したものの、1兆円目標には至らなかった。今後の更なる輸出拡大のため、在外公館やJETRO等の諸機関とも連携して、輸出先国・地域の市場規模、インフラ、食の志向等を踏まえた輸出可能性をより深く分析するとともに、海外の食品安全規制への対応の強化、海外の規制・ニーズに応じた生産ができる事業者の育成、輸出先のニーズに応じた供給力の強化、海外で売れる可能性を持った新たな商品の発掘・開発・売り込みの強化、加工による付加価値の高い輸出の取組の強化等を品目ごとの課題に応じた対応を進める。

（中略）

上記の取組を総合的に進め、令和12年までに農林水産物・食品の輸出額を5兆円（内訳については、少額貨物（1ロット20万円以下）は除き、農産物1.4兆円、林産物0.2兆円、水産物1.2兆円、加工食品2.0兆円）とすることを目指す。

（6）需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

③ 米政策改革の着実な推進と水田における高収益作物等への転換

ア 消費者・実需者の需要に応じた多様な米の安定供給

国内の米の消費の減少が今後とも見込まれる中、水田活用の直接支払交付金による支援等も活用し水田のフル活用を図るとともに、米政策改革を定着させ、国からの情報提供等も踏まえつつ、生産者や集荷業者・団体が行う需要に応じた生産・販売を着実に推進する。

（中略）

さらに、国内の主食用米の需要が減少する中、「コメ海外市場拡大戦略プロジェクト」を通じ、日本産コメ・コメ加工品の新たな海外需要の拡大を図るため、産地や輸出事業者と連携して戦略的なプロモーション等を行うとともに、高まる海外ニーズや規制の情報、輸出事例等について産地やメーカー、加工・流通サイドへの情報提供を行い、海外市場の求める品質や数量等に対応できる産地の育成等を推進する。

1. 国別輸出額目標

国名	2019年実績	2025年目標	国別のニーズ・規制に対応するための課題・方策
合計	52億円	125億円	
香港	15億円	36億円	・大手米卸や輸出事業者が中食・外食を中心に需要を開拓しており、今後もレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る。
アメリカ	7億円	30億円	・大手米卸や輸出事業者が日系小売店需要を開拓。今後は日本食レストラン等やEC等の小売需要を開拓。またパックご飯や米粉の最大の輸出先国であり、更なる市場開拓を図る。
中国	4億円	19億円	・大手米卸等がECやギフトボックス等の贈答用を中心に需要を伸ばしており、更なる開拓を図る。 ・コスト縮減のためには指定精米工場等の活用に加えて工場等の追加や輸入規制の緩和が不可欠。
シンガポール	8億円	16億円	・輸出事業者やJA系統等が中食・外食を中心に需要を開拓。更にレストランチェーンやおにぎり店等をメインターゲットとした需要開拓を図る。
その他	18億円	22億円	・UAEや欧州等のコメを主食としない地域では、寿司等の日本食需要拡大に合わせて日本産米の需要開拓を図る。 ・EUを中心に拡大するグルテンフリー需要の取り込みを通じた米粉・米粉製品の需要開拓を図る。

2. 輸出産地の育成・展開

<輸出産地数>

- ・ 30～40産地（先進的なJA等をモデル産地として、千トン超の輸出用米の生産に取り組む産地を育成する）

<今後育成すべき国内産地>

- ・ 国際競争力を有するコメの生産と農家手取り収入の確保の両立を図ることで、大ロットで輸出用米を生産・供給する産地

<生産基盤の強化やロットの拡大、産地間連携の実現に向けた方策>

- ・ 輸出事業者と産地が連携して取り組む、多収米の導入や作期分散等の生産・流通コスト低減の取組の支援により、輸出用米の生産拡大（主食用米からの作付転換）を推進。

3. 加工・流通施設の整備

- ・ パックご飯メーカーや米粉・米粉製品メーカーが輸出に取り組んでいるが、輸出先国の規制等への対応が必要になるケースがあることから、当該規制等対応のための取組や輸出向け生産に必要な機械・設備の導入等を支援。

4. 品目別団体を中心とした販路開拓

- ・ 現在、（一社）全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会（全米輸）が品目別のプロモーションを実施。プロモーションの財源には、国庫補助金のほか会費収入も一部活用。
- ・ 今後全米輸は、新興市場（輸出事業者の進出が不十分な国・地域あるいは分野。UAE・北欧や、アメリカのEC市場等を想定）でのプロモーション等を通じた市場開拓を予定。実施に際してはJETRO・JFOODOとも連携。

コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況

輸出の現状

○ コメ(援助米除く)の輸出額が対前年比+15%(数量ベースで+13%)である一方、日本食レストランの営業停止等の影響により日本酒の輸出額は+3%に留まり、コメ・コメ加工品全体の輸出額は対前年比+5%(数量(原料米換算)ベースで+2%)。

品 目 名		2016年	2017年	2018年	2019年	2020年		(参考) 主な輸出先国
							対前年比	
コメ・コメ加工品	数量(※)	24,135トン	28,340トン	31,741トン	34,851トン	35,533トン	+2%	アメリカ 香港 中国 台湾 シンガポール
	金額	221億円	261億円	304億円	323億円	338億円	+5%	
コメ (援助米を除く)	数量	9,986トン	11,841トン	13,794トン	17,381トン	19,687トン	+13%	香港 シンガポール アメリカ 台湾 中国
	金額	27億円	32億円	38億円	46億円	53億円	+15%	
米菓 (あられ・せんべい)	数量	3,567トン	3,849トン	4,053トン	4,033トン	4,222トン	+5%	アメリカ 台湾 香港 シンガポール サウジアラビア
	原料米換算	3,032トン	3,272トン	3,445トン	3,428トン	3,589トン	+5%	
	金額	38億円	42億円	44億円	43億円	45億円	+5%	
日本酒 (清酒)	数量	19,737 キロリットル	23,482 キロリットル	25,747 キロリットル	24,928 キロリットル	21,761 キロリットル	-13%	アメリカ 中国 香港 台湾 韓国 シンガポール
	原料米換算	11,117トン	13,227トン	14,502トン	14,041トン	12,257トン	-13%	
	金額	156億円	187億円	222億円	234億円	240億円	+3%	

※コメの輸出量とコメ加工品(米菓及び日本酒)の輸出量(原料米換算)の合計

(参考) 米の輸出数量及び輸出金額の推移

	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		2020年	
	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
輸出合計	7,640 (+69%)	2,234 (+56%)	9,986 (+31%)	2,709 (+21%)	11,841 (+19%)	3,198 (+18%)	13,794 (+16%)	3,756 (+17%)	17,381 (+26%)	4,620 (+23%)	19,687 (+13%)	5,311 (+15%)
香港	2,519 (+109%)	659 (+75%)	3,342 (+33%)	842 (+28%)	4,128 (+24%)	1,016 (+21%)	4,690 (+14%)	1,160 (+14%)	5,436 (+16%)	1,372 (+18%)	6,978 (+28%)	1,796 (+31%)
シンガポール	1,850 (+93%)	463 (+55%)	2,350 (+27%)	539 (+16%)	2,861 (+22%)	642 (+19%)	3,161 (+10%)	694 (+8%)	3,879 (+23%)	802 (+15%)	3,696 (-5%)	785 (-2%)
アメリカ	322 (+254%)	103 (+185%)	812 (+152%)	236 (+129%)	986 (+21%)	320 (+36%)	1,282 (+30%)	404 (+26%)	1,980 (+54%)	543 (+34%)	1,989 (+0%)	565 (+4%)
台湾	753 (+348%)	268 (+264%)	910 (+21%)	321 (+20%)	943 (+4%)	350 (+9%)	1,173 (+24%)	394 (+12%)	1,262 (+8%)	411 (+4%)	2,004 (+59%)	622 (+51%)
中国	568 (+1,135%)	291 (+1,429%)	375 (-34%)	163 (-44%)	298 (-21%)	97 (-40%)	524 (+76%)	211 (+117%)	1,007 (+92%)	363 (+72%)	1,002 (-0%)	321 (-12%)
オーストラリア	273 (+44%)	84 (+51%)	357 (+31%)	109 (+30%)	476 (+33%)	145 (+33%)	635 (+33%)	197 (+37%)	770 (+21%)	233 (+18%)	1,074 (+39%)	334 (+44%)
タイ	208 (+890%)	37 (+321%)	395 (+90%)	71 (+93%)	192 (-51%)	51 (-29%)	320 (+67%)	81 (+60%)	578 (+81%)	145 (+79%)	555 (-4%)	145 (+0%)
イギリス	189 (+226%)	60 (+160%)	326 (+72%)	98 (+64%)	695 (+113%)	191 (+94%)	422 (-39%)	121 (-37%)	450 (+7%)	131 (+8%)	451 (+0%)	131 (+0%)
ベトナム	142 (+788%)	15 (+195%)	74 (-48%)	16 (+6%)	101 (+36%)	33 (+108%)	118 (+17%)	37 (+11%)	213 (+81%)	65 (+75%)	159 (-25%)	46 (-30%)
ロシア	30 (-45%)	10 (-51%)	74 (+147%)	25 (+162%)	78 (+5%)	31 (+21%)	120 (+54%)	43 (+39%)	174 (+45%)	64 (+50%)	199 (+14%)	72 (+12%)
マレーシア	124 (+1,967%)	41 (+1,862%)	167 (+35%)	45 (+10%)	259 (+55%)	62 (+40%)	221 (-15%)	51 (-17%)	234 (+6%)	59 (+14%)	185 (-21%)	46 (-22%)
モンゴル	134 (+84%)	24 (+68%)	198 (+48%)	33 (+37%)	203 (+3%)	32 (-4%)	336 (+66%)	56 (+73%)	315 (-6%)	53 (-5%)	347 (+10%)	58 (+9%)
その他	528 (+81%)	179 (+57%)	606 (+15%)	211 (+17%)	621 (+2%)	228 (+8%)	792 (+28%)	307 (+35%)	1,083 (+37%)	380 (+24%)	1,048 (-3%)	391 (+3%)

資料:財務省「貿易統計」(政府による食糧援助を除く。)

注1:()内は対前年同期増減率である。

注2:数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。